

# 書写の原理原則発見型授業スタイルの提案

## —左払いの方向に関する指導—

藤 井 浩 治

### はじめに

本研究は書写授業において、字形を構成する原理原則について発見型の授業スタイルを試行し、提案する継続研究である。

漢字は殷代の甲骨文字に始まり、およそ1600年を経て唐代に楷書として完成を見た。その間多くの先人たちが知恵を絞り、試行錯誤と工夫を重ねてきた。覚えやすさ、書きやすさ、運筆の速度、字形の美しさ等々を追及し、省略と変形を繰り返した中での完成であった。

つまり、現在の書写授業における字形を構成する原理原則とは言い換えれば、先人たちの知恵の結晶であり、学校教育において文字の原理原則を子どもたちに伝えていくことは、文字の歴史を継承していく上で重要なことである。

そこで、児童が原理原則を理解し技能を定着する書写授業の在り方の研究が求められることになる。本研究ではその手法として「原理原則発見型の授業スタイル」を試行する。この発見型の授業スタイルは、児童の学習に対する関心意欲を高めるとともに、思考力の向上及び、知識・技能の定着に効果が期待でき、他教科においても積極的に実施されている。

前回の提案では「三つの部分から成る漢字の組立て方」に関する指導を例に挙げ、その成果と課題を考察した。前回の研究の課題として、次の3点が挙げられる。①原理について、小学生を対象として更に分かりやすく指導できるよう工夫する必要がある。②学習者の関心意欲の向上、思考力の向上及び、知識・技能の定着における効果の実証③原理原則発見型授業スタイルの実践例の開発。そこで、今回は「左払いの方向」に関する指導を例に挙げ、実際に藤井が行った書写授業について報告する。

### 1. 「左払いの方向」の原則—複数の「左払い」を連続して書く場合

「左払い」が複数ある漢字としては、「行」の「彳（ぎょうにんべん）」のように複数（二つ）の左払いを連続して書くものと、「和」の「禾（のぎへん）」のように複数（二つ）の左払いを連続して書かないものがある。本論では、複数の左払いを連続して書く場合について考察を行う。



「左払い」が複数ある漢字の場合、その方向は同じではなく、方向を変えて書いている。

つまり、複数の「左払い」のある漢字には上図「夕」のように「開く方向」で書かれるものと、上図「友」のように「閉じる方向」で書かれるものとの二種類が存在する。

小学校で学習する漢字の中で、連続して書かれる複数の左払いを持つ漢字をすべて抜き出し、「開く方向」と「閉じる方向」に分類すると次のようになる。なお、左払いの方向の確認は『審・字形と筆順』（宮澤正明編・光村図書出版）にて行った。

<開く方向> = 77文字

●1年生（2文字）

夕 名

●2年生（13文字）

家 外 角 顔 魚 形 後 行 場 色 多 冬 夜

●3年生（15文字）

客 急 祭 死 終 待 湯 負 物 勉 役 陽 落 列 路

●4年生（15文字）

街 各 漁 径 察 残 象 静 然 争 隊 腸 徒 得 例

●5年生（20文字）

移 衛 易 液 往 解 格 額 久 際 修 術 条 絶 像 徳 燃  
復 夢 略

●6年生（12文字）

閣 危 劇 降 刻 衆 従 縦 処 傷 晚 律

<閉じる方向> = 25文字

●2年生（4文字）

夏 後 麦 友

●3年生（7文字）

級 波 反 坂 板 皮 返

●4年生（4文字）

愛 飯 府 変

●5年生（5文字）

仮 酸 破 復 複

●6年生（5文字）

吸 暖 腹 優

名 形 家

「開く方向」の左払いについては、上図のように左払いの先端が縦に並んでいるものが多く、75.3%（77文字中58字）に当てはまる。（上記の漢字中無印のもの）  
縦に並んでいないものについては、下図のように左払いの先端が斜めに並んでいるものが9.1%（77文字中7字）あり、全て「易」と類似した字形の部分有している。（波線の漢字）

場 易 陽

横に並んでいる漢字は、15.6%（77文字中12字）あり、「角」「魚」「色」のように漢字の上部に位置している左払いである。（下線の漢字）

角 魚 色

これら漢字の上部にある左払いは下図のように、「角」を例にとると「ク」の部分と「用」の部分が組立てられて完成していると考えられる。上の「ク」の部分が下の部分と譲り合って組み立てられるため、「雨」が「雨かんむり」に変形したことと同様で「ク」の下部を揃えたのではないかと推察される。つまり、もともとは縦に並んでいた左払いを上下に圧縮したため、横並びに変形したのであり、「縦並び」の類型ととらえることができる。

↓ ク 用 雨 雨

以上述べてきたことをまとめると次のようになる。左払いが複数ある漢字の中でそれぞれの左払いを「開く方向」にするものは縦並びのものが多い。そうでない場合であっても「斜め並び」または、「縦並び」になるはずだったものが上下の組立て方の原則に当ては

めて「横並び」に変形したものである。つまり、複数の左払いを「開く方向」にするものは、それぞれの左払いが縦方向に並んでいるという法則性が確認できる。

「閉じる方向」の左払いについては、下図のように左払いの先端が横に並んでいるものが100%（25文字中25字）当てはまる。

麦 吸 皮

この「左払いの原則」について書写教科書『新しい書写（教育出版平成23年版）』では、「二つとも下の方にあるとき・・先がせまくなるように書く。それ以外るとき・・先が広くなるように書く」と表記している。

また、宮澤は「文字のはなし5」の中で「左払いが上下やななめにならぶ場合・・はじめの左払いは少し横にして払い、下の左払いは上よりも少したてて払います。3つある場合は、だんだんたてながら払います。（中略）左払いが横にならぶ場合・・『友・反・夏・麦』などのように、左払いと折れてから左に払う画とが横にならぶ場合があります。左側は約四十五度方向に、右側の終筆はほぼ真横に払います。」と述べている。

私は、これらを踏まえて以上の法則性を書写授業において、児童に分かりやすく説明するため、次のように原則として示すこととした。

続けて書く左払いが複数ある漢字について

- ① 左払いの先端が縦に並んでいる場合は「開く方向」にする。
- ② 左払いの先端が横に並んでいる場合は「閉じる方向」にする。

## 2. 「左払いの方向」の原理

それでは、なぜそのような方向になるのかについて、その原理を考察する。

宮澤は「文字のはなし4」の中で「左払いの長短」を説明する際「形」のように、下

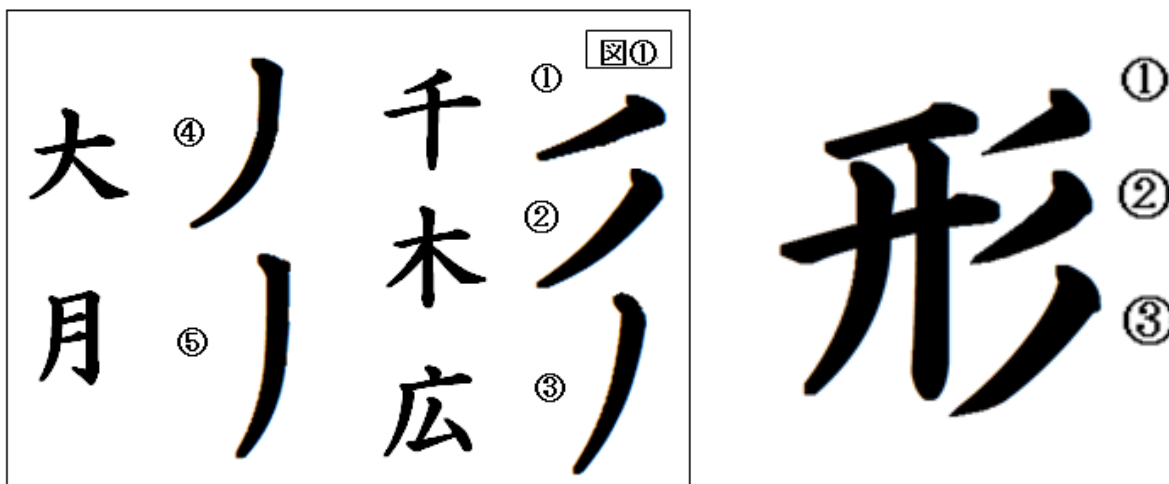
形

に書かれる左払いがだんだん長くなっていることに着目し、左図のように左払いを連続して縦に書く時は回転する円運動を徐々に大きくするために左払いが下に行くほど「長く」なることと、払いの方向が下に行くほど「縦方向」になることを原理としている。宮澤は文字を書く運動の面からのアプローチで原理を説いている。しかし、

宮澤の原理により「縦並び」の左払いについては説明できるが、「横並び」の左払いについては説明ができない。

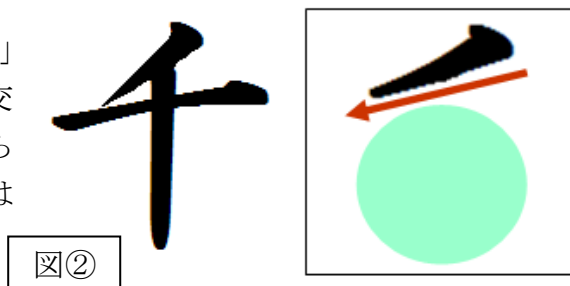
そこで、漢字の中での「左払いの位置」に着目して左払いの原理について考察を試みる。

(1) 縦並び「開く方向」の原理—部分の位置関係による考察



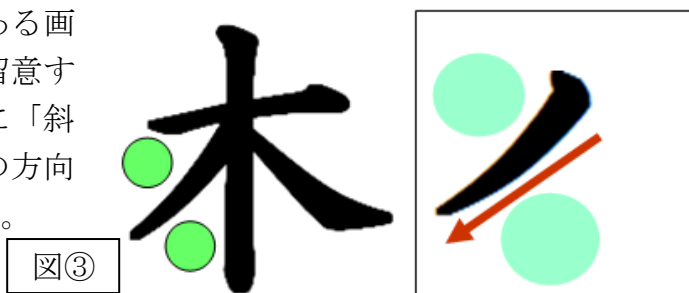
図①のように「左払い」には大きく分けて五つの方向がある。この五種類の「左払い」を「形」という漢字の「三つの左払い」に当てはめてみると、一番上の「左払い」は①の方向に似ている。二番目は、②の方向に似ており、三番目は、③の方向に似ていることが分かる。

まず、「①方向」の「左払い」から考察する。漢字の上部の位置にある「左払い」は「下の方向」にはらうと図②のように下の位置にある画に交錯するため、交錯しないように「横方向」にはらっていると考えられる。①の方向に払う漢字には以下のようなものがある。



- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| 《1年生》手千        | 《2年生》活紙秋番風毛話         |
| 《3年生》委橋係受重乗動秒和 | 《4年生》愛季氏辞種積孫低働利      |
| 《5年生》移採授税舌程    | 《6年生》延我看系呼私純将垂誕暖賃秘郵乱 |

次に、漢字の上部から少し下がった位置にある「②の方向」の「左払い」について考察する。この位置の「左払い」は、上にある画にも下にある画にも交錯しないように留意する必要がある。そのため、図③のように「斜めの方向」にはらうと考えられる。②の方向に払う漢字には以下のようなものがある。



《1年生》休森木本林

《2年生》体東米妹来

《3年生》集深速味葉練

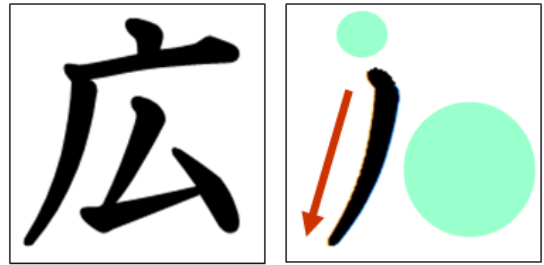
《4年生》案栄果課巢束末未

《5年生》条築保迷

《6年生》株困策染探

最後に、漢字の上部位置より少し下がった位置から「漢字の左最下部」の位置に向かって払う「左払い」は、図④のように「左払い」より下の空間に画がないため、左下に向かって長く「縦方向」に払うことができると考えられる。③の方向に払う漢字には以下のようなものがある。

図④



《2年生》原広店戸声

《3年生》庫庭度屋局病所炭農

《4年生》歴康席底府願刷成倉飯

《5年生》圧厚応序居属減

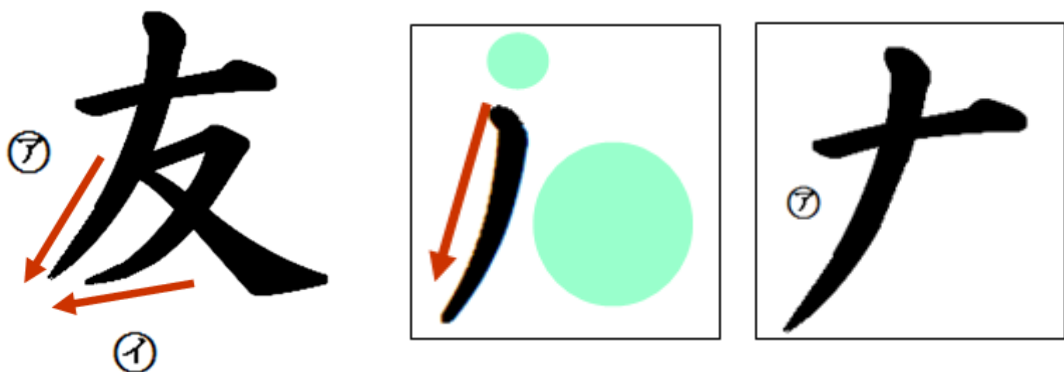
《6年生》灰座庁展届痛拡危劇源廠城誠蔵臓糖



つまり、「左払い」の方向の原理を、文字中における位置関係から考察すると、①の「左払い」は下に画があるため「横方向」に、②の「左払い」は上下に画があるため「斜め方向」に、③の「左払い」は下に画がないため「縦方向に長く」はらうのであり、従って縦に並ぶ左払いの方向は下に位置するほど縦方向（開く方向）になると考えられる。このように、複数の左払いがある場合、方向を工夫することで、画同士が交錯することのないよう譲り合っ

ている原理によると考えられる。

## (2) 横並び「閉じる方向」の原理—運動面からの考察



横並びの左払いについて「友」という漢字を例に挙げて考察する。上図のように「友」という漢字の⑦の「左払い」は漢字の左最下部に画がないため、下（左最下部）に向かってかなり「縦方向」に払う前述③番の「左払い」の同種となる。





「友」という漢字の④の「左払い」は、上図のように3種類の方向への払いが考えられる。つまり、①のように㊸と同じ方向に払う場合、②のように㊸へ向かって閉じる方向だが直線で払う場合、③のように㊸へ向かって払いを曲線にして閉じる方向で払う場合の3種類である。

「②の例」は2つの払いの空間が狭くなるためにより方向であるとはいえない。そこで①と③について、次の画への繋がりという観点で考えると下図のように①よりも③の方が次の画へスムーズに運筆できることが分かる。



つまり、一つ目の左払い(㊸)は、左最下部に画がないため、かなり縦方向に長く払い、二つ目の左払い(④)は折れた後、次の右はらいに向かって最短距離で運筆でき、更に払いどうしの空間を確保するため曲線を描いて斜め方向から横方向に変化したため、「閉じる方向」になったと考えることができる。これは「麦」の行書体を見ても③の「友」と同じように最短距離を運筆するために第6画目から7画目が連続していることから分かる。

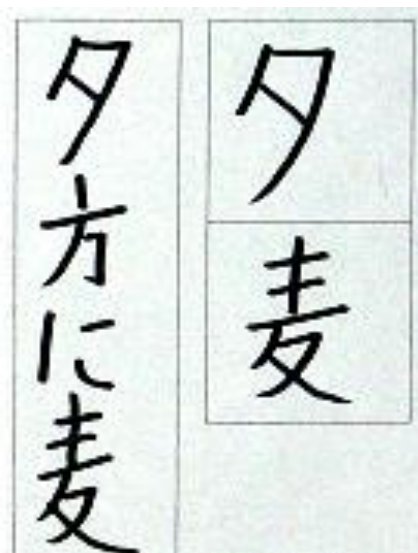
### 3. 「左払いの方向」の授業実践例

「左払いの方向」の原理原則について「発見型の授業スタイル」を展開した実践事例について報告する。本授業は平成25年2月26日に、島根県安来市立井尻小学校において行った実践例である。安来市教育研究会国語部会の書写研修会において、書写授業の依頼を受け、井尻小学校3・4年生(12名・複式)の学級をお借りして藤井が行ったものである。発見型授業の場合、本来は大きく書いて確かめることができる「毛筆」を使用した授業の方が望ましいが、安来市教育研究会国語部会からの要望を受けて「硬筆」での実践となった。

#### (1) 試し書き<授業前の実態>

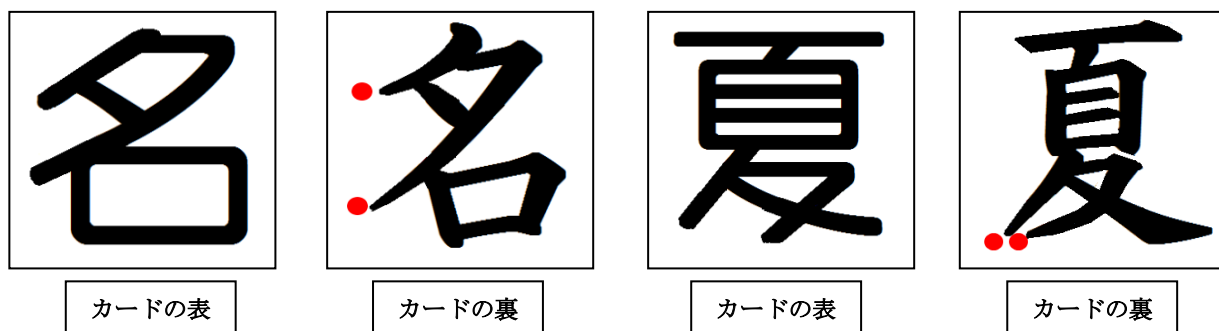
手本を見ないで「夕」と「麦」の文字及び「夕方に麦畑へ行く」の短文を硬筆で試し書きした。予備知識を与えていないため、授業前の学習者の書き文字の実態が表出される。本授業でねらいとなる「左払いの方向」における原則についても児童の課題が見られた。

具体的に学習者の試書を提示すると、左図のように「夕」の左払いが「縦並び」であるにもかかわらず、同じ方向になっている。「麦」の一つ目の左払いが短いため「横並び」になっていない等、左払いの方向の原則において多くの課題が見られる。

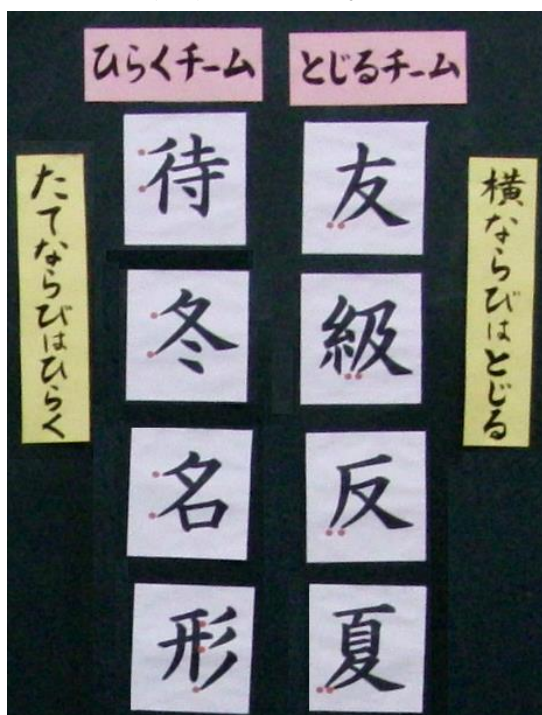


## (2) 原則の発見<分類法>

以下「左払いの方向」の原則について発見型の授業スタイルの実際を授業の流れに沿って紹介する。



「左払いの方向」の原則については、分類法を活用した。複数の左払いが「閉じる方向」の漢字例「友」「級」「反」「夏」と、「開く方向」の漢字例「待」「冬」「名」「形」の八字を「とじるチーム」「ひらくチーム」に分類した。表に左払いの方向の正解が分からないフォントで字例を示し、裏に方向の正解が分かる毛筆体で字例を示した漢字カードを使ってクイズ形式で分類を行った。



また、板書においても漢字のなかま分けが視覚的にも分かりやすいように工夫した。八枚のカードの分類後にそれぞれの「チーム」の共通点を考えさせる中で、「横並びは閉じる方向」「縦並びは開く方向」という「左払いの方向」の原則を発見することができた。

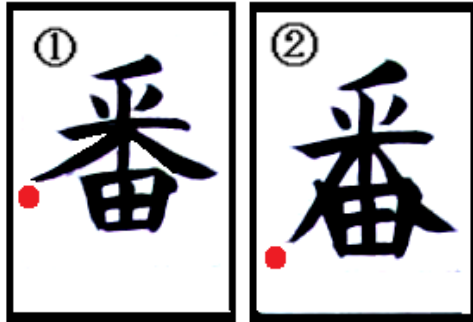
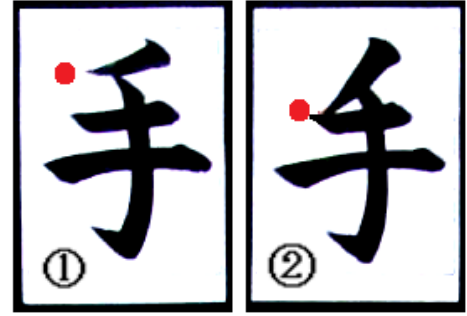
原則の発見後に「それでは今日の課題文字である『夕』について左払いの方向はどうだろう」との発問に対し、学習者から『夕』の左払いは開く方向です。なぜなら、二つの左払いが縦に並んでいるからです。」と原則に沿って説明した発言を得ることができた。同様に『麦』について左払いの方向はどうだろう」との発問に対しても、学習者から『麦』の左払いは閉じる方向です。なぜなら、二つの左払いが横に並んでいるからです。」と原則

に沿って説明した発言を得ることができた。



### (3) 原理の理解<比較法>

「左払いの方向」の原理の理解については、比較法を活用した。「手」字を例にして、漢字の「上部」にある左払いを「①横方向」に払っているカードと「②斜め方向」に払っているカードを比較しながら、どちらが整うのか、どうして良いのかを発問した。「斜め方向に払うと二画目とぶつかるので、横方向に払う」という原理についての発言があった。



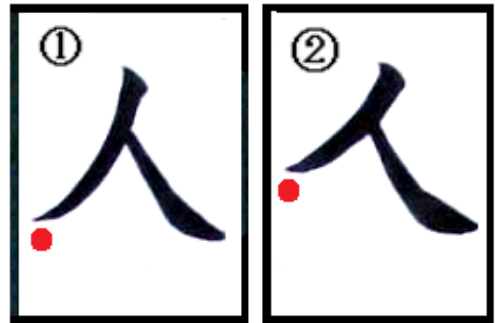
同様に「番」字を例にして、漢字の「中央部」にある左払いを「①斜め方向」に払っているカードと「②下方向」に払っているカードを比較して考えさせた。「下方向に払うと八画目とぶつかるため、斜め方向に払う」という原理に関する発言があった。

そして、「人」字を例にして、「左払い」が「①縦方向（下方向）」と

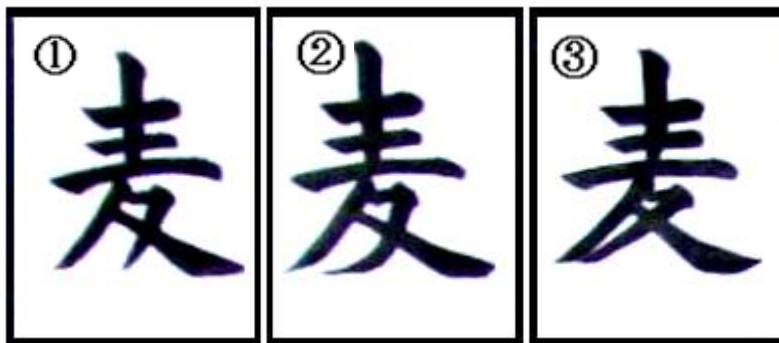
「②斜め方向」

の漢字カードを比較させて、漢字の「左最下部」に画のない場合は「縦方向（下方向）」に払うことを理解した。

多くの児童が正しい方向のカードを選択すると同時に、他の画と交錯しないために「払いの方向」を決定している原理を理解できた。



「横に並ぶ左払い」が「閉じる方向」になる原理についても下図のように、二つの左払いが「①同じ方向」・「②曲線で閉じる方向」・「③直線で閉じる方向」の三種類の「麦」を比較して考えさせた。最も整っている「麦」として多くの児童が②を選択すると同時に「二つ目の左払い」が曲線を描きながら方向を変化させることで次の画へ速く移ることができるようになっている原理を理解することができた。



### (4) 自己課題の確認<試書の自己評価>

児童とともに発見した「左払いの方向」の原則に当てはめて、自分の試し書きの確かめを行った。自分で確かめを行った後、全体で挙手により試書の自己評価のまとめをした。

左払いの方向の原則についてできていた人数<試書>

- ① 縦並びの「左払い」は開く方向にする。 (3人/12)
- ② 横並びの「左払い」は閉じる方向にする。 (5人/12)

原則の学習をする以前の結果なので、学習者の日常の書写実態が現れている。上記のように「開く方向」の原則ができていない学習者が多く、わずか3名(25%)しかできていないという実態であった。「閉じる方向」の原則についてもできていた児童は5名(42%)であった。この結果から、左払いの方向については、日常殆ど意識されずに書かれていることがわかる。

(5) 原則を意識して書く<中間評価>

試書の自己評価を終えた後、手本に学習した「原則」を記入する。原則を記入した後、原則を意識して二回目を書くよう指示し、学習者が書写している間に机間指導を行い、原則に照らして個別に肯定的な評価をして廻った。

二回目の書写後、「試書」の評価と同様に、原則ができていたか否かを挙手により全体で確認し、その数を板書した。板書の「試書」と「二回目」の達成数を並べて表記することで学習者の技能の伸びが確認でき、意欲を向上させる効果がある。以下の通りすべての原則において学習者の大きな向上が見られた。



手本に矢印を記入して原則を確認

左払いの方向の原則についてできていた人数<二回目>

- ① 縦並びの「左払い」は開く方向にする。 (12人/12)
- ② 横並びの「左払い」は閉じる方向にする。 (11人/12)

(6) 原則の応用

原則がほぼ理解できたところで、他文字に応用することで原則の定着を図る。

- ① -1 原則の発見の場面で分類した「冬・待・形・名・級・夏・友・反」8字を「原則」に留意して考えて書くように指示した。(ゆっくり書く)
- ① -2 「冬・待・形・名・級・夏・友・反」8字の方向について、正解できたものを○で囲みながら自己評価する。
- ① -3 再度「冬・待・形・名・級・夏・友・反」8字を「原則」に留意して速く書くように指示した。(60



○で囲みながら原則を確認

秒で制限する)

- ① -4 「冬・待・形・名・級・夏・友・反」 8字の方向について、正解できたものを○で囲みながら自己評価する。(速く書いても乱れないか、原則が意識できているか)
- ② -1 他の漢字「外・顔・祭・列・皮・板・波・後」 8字を「原則」に留意して考えて書くように指示した。(ゆっくり書く)
- ② -2 「外・顔・祭・列・皮・板・波・後」 8字の方向について、正解できたものを○で囲みながら自己評価する。
- ③ -3 再度「外・顔・祭・列・皮・板・波・後」 8字を「原則」に留意して速く書くように指示した。(50秒で制限する)
- ② -4 「外・顔・祭・列・皮・板・波・後」 8字の方向について、正解できたものを○で囲みながら自己評価する。(速く書いても乱れないか、原則が意識できているか)

ここで、「時間を制限」して書かせたのは、日常の書字場面に近づけるためである。日常文字を書く時には、ゆっくり確かめながら書くことはできない、速く書いても学習した原則を生かして書くことができなければ、書写の日常化にはならないからである。

### (7) まとめ書きの自己評価

本時のねらいである「原則」に照らした「試書」と「二回目」評価に続いて「まとめ書き」の自己評価も板書する。板書の「試書」から「まとめ書き」までの達成数を並べて表記することで学習者の技能の伸びが確認でき、全体としての達成感を実感することができる。本授業でもすべての原則においてねらいがほぼ達成できていることがわかる。

#### 左払いの方向の原則についてできていた人数<まとめ書き>

- |                       |          |
|-----------------------|----------|
| ① 縦並びの「左払い」は開く方向にする。  | (11人/12) |
| ② 横並びの「左払い」は閉じる方向にする。 | (12人/12) |

また、自己評価の後に、机上に「試書」と「まとめ書き」を並べて置かせて隣の席の人と交換して鑑賞し合う相互評価を取り入れた。相互評価では、「試書」と「まとめ書き」を比較して「原則(ねらい)」にてらして改善できたところを発言させるようにした。

### (8) 学習の成果

#### ① 方向の原則が 2/3 改善し、速書にも対応できている例<児童A>

本授業実践において見られた学習者の学習成果について、「試し書き」と「まとめ書き」を比較して以下に示す。

児童Aは「夕」の「縦並びは開く原則」が改善し、「麦」の「横並びは閉じる方向」も改善しているが、「行」については改善が見られない。日常化の速書き対応についても文字の大きな乱れは感じられず、原則の自己評価した○印の数も「冬待・・・」は「丁寧書き」が4つ「速書」が5つへ、「外顔・・・」は「丁寧書き」が5つ「速書」が6つへと逆に増えている。



用紙②  
( 児童 A )

夕方に麦畑に行く。

夕  
麦

まとめ

こうひつ用紙①  
速書 )年 ( 児童 A )

外	外	冬	冬
顔	顔	待	待
祭	祭	形	形
列	列	名	名
皮	皮	級	級
板	板	夏	夏
波	波	友	友
後	後	反	反

夕方に麦畑へ行く。

夕  
麦

試書

夕  
麦

試書

2回目

③ 方向の原則が全て改善し、速書にも対応できている例<児童B>

用紙②  
( 児童 B )

夕方に麦畑へ行く。

夕  
麦

まとめ

こうひつ用紙①  
速書 )年 ( 児童 B )

外	外	冬	冬
顔	顔	待	待
祭	祭	形	形
列	列	名	名
皮	皮	級	級
板	板	夏	夏
波	波	友	友
後	後	反	反

夕方に麦畑へ行く。

夕  
麦

試書

夕  
麦

試書

2回目

児童 B は「夕」「麦」「行」ともに「左払い」の方向の原則が改善している。速書きについても文字の大きな乱れは感じられず、自己評価の○印数も「冬待・・・」は「丁寧書き」が7つ「速書」が7つだったが、「外顔・・・」は「丁寧書き」が7つ「速書」が8つと評価が増えている。

④ 方向の原則は全て改善しているが、速書には対応できていない例<児童 C>

児童 C は「夕」「麦」「行」ともに改善している。速書きについては対応が充分ではなく、1分間ですべての文字を書き切っていない。また、自己評価の○印数も「冬待・・・」は「丁寧書き」が7つだが、「速書」が5つであり、「外顔・・・」は「丁寧書き」が7つ「速書」が7つと評価が増えていない。



4. おわりに—成果と課題—

書写授業における「原理原則」の発見型授業スタイルについて、「左払いの方向」を取り上げて、実践事例を提示した。「漢字カード」を活用し、「分類法」を中心にした発問により、学習者に原則を発見させることができた。

また、前回の研究において課題であった「原理の指導法」については、「左払いの方向」の原理を小学生対象として、できるだけ分かりやすくなるよう整理した。つまり、「漢字カード」を活用した「比較法」により、学習者に視覚的に原理を理解させることができるよう工夫を行った。

しかし、もう一つの課題であった「学習者の関心意欲の向上、思考力の向上及び、知識・



技能の定着における効果の実証」については、課題が残った。今回の実践が主催者側の希望で「硬筆」を使用した授業であり、文字が小さいため「左払いの方向」に大きな差が出ていく、「試書」と「まとめ書き」を比較してみても能力の向上を実感しにくかったためである。反面、「硬筆」であったため、他の多くの文字に応用するとともに「速書」による日常化を図ることができた。その点において、「学習の成果」で取り上げた児童例からも「知識・技能の定着」には効果があったものと考えている。

今後は、本研究で課題になった点について継続研究を行うとともに、書写における原理原則の発見型授業スタイルについて本研究以外の単元においても実践化していきたいと考えている。

## 参考論文

- 1) 「文字のはなし」 宮澤正明
- 2) 『新・字形と筆順』 宮澤正明 平成25年 光村図書出版株式会社
- 3) 『「書くこと」の学びを支える国語科書写の展開』 松本仁志 平成21年 三省堂
- 4) 『書写の力』 宮澤正明 平成19年 光村図書出版
- 5) 「書写の学習指導方法と認識活動との関係ー「比較」を中心にー」 松本仁志  
『書写書道教育研究第11号』平成9年 全国大学書写書道教育学会
- 6) 「書写の課題解決における自己評価活動と支援の在り方」 青山浩之・當波ゆう子  
『書写書道教育研究第17号』平成15年 全国大学書写書道教育学会
- 7) 「学習者の動機づけを踏まえた書写指導のあり方について」 當波ゆう子  
『書写書道教育研究第16号』平成14年 全国大学書写書道教育学会
- 8) 『新しい書写』 久米公監修 平成23年版 教育出版株式会社

(ふじい こうじ 尾道市立向東小学校教頭)